

「竹子小学校竹子棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

霧島市立竹子小学校

2 学年・人数

3年生から6年生まで26人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

9月11日(月), 9月14日(木) 体育(竹子小体育館)

9月19日(火), 9月20日(水) 体育(竹子小体育館)

1月16日(火), 1月18日(木) 体育(竹子小体育館)

(2) 発表の日時・場所

10月1日(日) 本校秋季大運動会(本校校庭)

10月29日(日) 溝辺文化祭(みそめ館)

1月19日(金) 日韓親善子供大使友好の翼発表交流会(みそめ館)

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

竹子棒踊り(たかぜぼうおどり)

(2) 由来

竹子棒踊りの起源は、島津義弘公の朝鮮出兵前後にあるといわれ、豊作祈願の舞として古くから竹子校区内の各集落で踊られてきたものである。保存会の指導の下、竹子小の児童も踊りを継承し、運動会では30年間、踊り継いでおり、地域の伝統をつなぐ踊りとなっている。

(3) 構成等

かすりの着物に五色の飾りを付け、頭には鉢巻き、手には4尺の棒を持ち、4人1組で踊る。扇子を手につけて声とともに入場し、「ソッソッソッ」と勇ましい掛け声を出しながら、跳び跳ねたり、背中を反らしたり、棒を左右、前後の人と叩き合わせたりするなど、複雑な動作で踊りが展開する。

5 保存会や地域との連携の具体

竹子地区の棒踊りは、かつて青年団を中心に踊っていたが、現在は保存会が継承し、地域行事等で披露されている。「小学生にも踊りを引き継いでもらおう」ということで昭和61年頃に当時の保存会が小学生へ指導を始め、昭和63年には運動会で棒踊りを披露し、平成29年度まで続き、その歴史は30年程となっており、学校・地域の特色ある伝統の踊りとなっている。平成26年には、10年程途絶えていた地域での棒踊りが復活し、その方々が小学生の指導にも携わっている。平成28年には、入場から踊りまで大人と全く同じ複雑な踊りを取り入れ、運動会では大きな拍手をいただいた。4人一組で踊る関係上、小学生の人数が不足する場合には保存会のメンバーが入り、大人と小学生が一体となった踊りが展開される。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

小学生の竹子棒踊りの動きは、平成 27 年度までは、地域の大人の踊りの動きを簡略化したもので踊っていたが、平成 26 年度に地域の棒踊り保存会が約 10 年振りに復活したのを契機に、平成 28 年度の運動会から大人と全く同じ動きで踊るようにした。保存会の指導を仰ぐ際に、地域で披露した保存会の踊りのビデオを分析し、踊りのパターンから流れまで細かく動きを整理した。扇子を持ち掛け声とともに入場する動きや、4 人 1 組で左右、前後の人との棒の打ち合いや、棒で脚を払う動作、4 人が棒の先を合わせて地面に打ち下ろす動作など、めまぐるしく複雑な動きで、後半に入るとより掛け声も大きくなり、白熱した踊りとなる。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

大人と同様の竹子棒踊りを覚える際、基本的な動きを高学年の子どもが覚え、その子どもが中学年の子どもに教える方法で進めた。「難しかったけど、やり遂げて楽しかった。」など、子ども同士で学び合う楽しさを十分に感じていた。また、運動会や文化祭等で演舞が終わった後は、「緊張したけどやり遂げられた。多くの人から大きな拍手をもらってうれしかった。」という声が聞こえた。保護者の方も「素晴らしい踊りで感動しました。自慢に思います。」と感想を述べていた。教職員からは「竹子の伝統の踊りを晴れ舞台で立派に演じさせたい。難しい動きがあるけれど練習すれば必ずできる。」「30 年近く、伝統をつないでいるのは素晴らしいこと。これからも特色として大事につないでいきたい。」という声が聞こえた。保存会の方からは「このように、大人と全く同じ動きを子どもたちが一斉に踊る姿は、感動を覚える。伝統をつないでもらい、ありがたく、うれしく思う。」と感想を述べている。地域の歴史と伝統をつなぐ竹子棒踊りをこれからも地域、学校の誇りとして継承していきたい。